

*題名中に書名が出現する場合は、引用符「」で囲みイタリック体を使用しない。

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は字句の訂正に留め、組版面積に影響を与えるような改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上り五印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で一二枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷第一頁の上方に部数を朱書すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

一八八九年四月二十七日ベルリンの第一八回ドイツ外科学会で北里柴三郎が破傷風菌の純培養に成功したことを報告している。ちょうど一〇〇年目に、その北里柴三郎ゆかりの地熊本で日本医史学会総会が開催されることになったのはうれしいことである。

第二次大戦後にアメリカ医学がドッと流入してわが国の医学も医療も医学教育もぬりかえてしまったが、それ以前はドイツ医学全盛期であった。今回ドイツから演者を招き日独がとくに親密だった時代に刻まれた歴史を再確認することができるだろう。さらにそれ以前の蘭方医学時代に活躍した外科医カスバルがドイツ人だったことを含めて、その生涯に光を当てられることになった。

蘭方と呼ばれ信じられていた医学にはヨーロッパ各国の医学がまじり、各国の人々の努力が加わっていたことを見逃してはならない。鹿子木会長の御着眼と御努力に敬意を表したい。

さて一般演題は四五題あり、時代も内容も実に多彩である。研究者はそれぞれ専門に分化しているが、医史学会は単一会場で開かれるからすべての演題を聞くことが可能である。分化と統合がほどよく調和している珍らしい学会の一つである。

今回の抄録号は演者諸氏の御協力により、複雑な図や表を避けつつきりした形に仕上がった。早くお届けして、熊本での学会が実り多いものになるように祈っている。

(大村 敏郎)